

平成29年度

公共事業事後評価（林道事業）

林道 竹ノ沢線

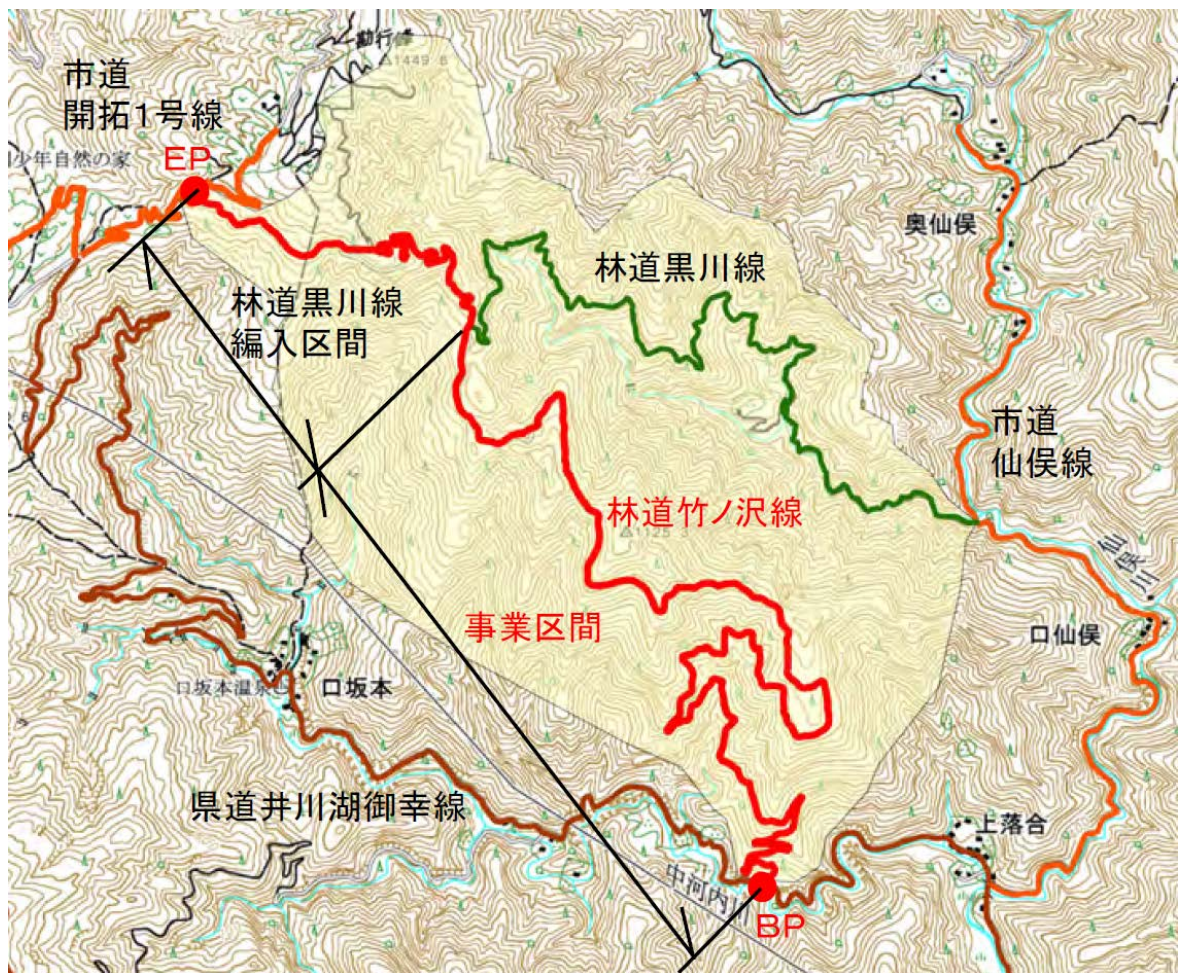
経済産業部 森林・林業局 森林整備課

【評価対象箇所】

林道 竹ノ沢線



【事業概要】



総延長 : 12,094m

事業区間 : 8,983m

編入区間 : 3,111m

全幅員 : 4.0m

受益区域 : 891ha

事業着手 : H4

事業完了 : H23

総事業費 : 1,506百万円

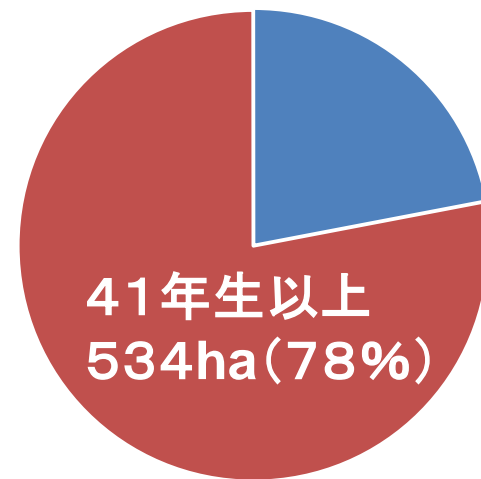
【事業の目的・必要性】

○森林資源の状況

受益区域面積：891ha



スギ・ヒノキ人工林
：688ha



森林資源の活用

森林整備の効率化

【事業の効果等】

(1) 費用対効果分析

	前回再評価 (H20)	今回評価 (H28)
総便益(B)	<u>30.23</u> 億円	<u>32.39</u> 億円
・ 木材生産等便益	8.96億円	10.35億円
・ 森林整備経費縮減等便益	21.27億円	22.04億円
総費用(C)	<u>19.61</u> 億円	<u>25.71</u> 億円
費用便益比(B/C)	<u>1.54</u>	<u>1.26</u>

【事業の効果等】

(2) 事業効果の発現状況

○受益区域内（891ha）における森林整備実績(H4～H28)

区 分	造林保育	間伐	主伐	計
延べ面積	108.2ha	260.0ha	18.7ha	386.9ha

※受益区域内の43%



(2) 事業効果の発現状況



大型トラックによる木材搬出が可能に。

○森林経営計画の策定

受益区域内の366haにおいて、大規模所有者を中心に森林経営計画を策定。

- 計画に基づく木材生産 (H24~H32)
70ha (2,953m³)

【事業実施による環境の変化】

- 掘削や盛土により人工的につくられた法面は、
早期に植生工による法面保護工を施工
⇒ 自然植生が回復しつつある。
- 路面を流下する雨水が谷部や沢に集中しないよう、
横断排水溝を設置し分散排水
⇒ 周辺森林の荒廃は発生していない。



【社会情勢等の変化】

○ふじのくに森林・林業再生プロジェクト

- 平成26年度末に新たな合板工場が稼働
⇒ 県内に50万m³の原木の受け入れ態勢が構築

○市産材（オクシズ材）の利用拡大

- 東京オリンピック・パラリンピック関連施設での木材利用を契機に、森林認証材の需要拡大が見込まれる
- 静岡市では、認証制度による環境付加価値の付与、供給体制の整備による市産材の利用拡大を目指す。
- 受益区域内の211haにおいて森林認証を取得。
静岡市内製材業者15社による「オクシズネット」が平成27年度に発足。
⇒ 受益区域からの認証材の供給

【対応方針案】

○評価結果

- 事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。

○今後の課題等

- 計画的な木材生産のために森林経営計画の策定や森林作業道の整備を一層支援

○同種事業への反映等

- 林道沿線における森林経営計画の策定や森林認証の取得